

子どもの権利、4つのポイント

山崎新さんのお話から

① 命を守られ、成長できること



命が守られ、その子のペースで大きくなれること。
休むことも、大きくなるために必要なこと。

例：熱があったら休む・病院に行く／
11歳の今は、まだこれから90年もある

② 子どもにとって最も良いこと



何かを決める時、子どもにとって一番いいことを
一緒に考える。
ルールを決める時は、子どもの気持ちを大事に。

例：進路を調ごなに否定されない／
「ダメ」を理由も説明してもらえる

※②は“大人が決める時に子どものことを考える”こと

③ 意見が聞かれ、尊重されること



自分に関わることについて、自由に意見を言えること。
意見を聞いてもらえないことが続くと、
自分が何をしたいのか分からなくなってしまう。

例：子どもにも、おしゃべりしたり
気持ちを出せる時間が必要

※③は“子ども自身が言っている、聞いてもらえる”こと

④ 差別のないこと



どんな理由でも差別されず、大切にされること。
差別は、日常のちょっとした決めつけの中にも
隠れている。

例：「あの子はそういう子だから」という
決めつけも小さな差別

みんなから出た声（5グループ合わせて）

4つのポイントごとに、共通して出てきた話をまとめました



① 命を守られ、成長できること

- 「熱がなければ大丈夫」と決められると、納得できないことがある
- お腹が痛い時、本当の理由は“さみしい”など別のこともある
- 具合が悪いと言しやすい子と、我慢しちゃう子がいる



② 子どもにとって最も良いこと

- 校則やきまりが、なかなか変わらないのが不思議
- 進路を否定されるとつらい
- 給食を残すと、食べ終わるまで席を立てなかった経験も



③ 意見が聞かれ、尊重されること

- 生徒会で提案しても、先生によって通ったり通らなかったりする
- スマホやゲームの時間を“勝手に”決められるとモヤモヤする
- 自分の意見を言っても、なかなか聞いてもらえないことがある



④ 差別のないこと

- 子どもが自閉症と診断を受けたあと、保育園でマスクができないのを理由に別の学校に行くように言われた
- 島（宮古島）出身だから、進学で不利になることがある
- 「男の子はピンクが好きじゃダメ」という決めつけが今も残っている

みんなの権利が守られたら、宮古島はどんな島になる？



自分らしくいられる島になる



新しいことに挑戦する人が増える



でも「挑戦して失敗したら、周りにどう思われるか気になる」という声もあった